

筆記用自助具の製作

1 相談内容

相談者は本人の母親です。これまでは右手に鉛筆を持たせ、人さし指と鉛筆をひも状のウレタンで巻きつけて固定して筆記していました。この方法で文字も短時間であれば書くことができたそうです。しかし、しばらくすると鉛筆が指から離れてしまい、だんだんと自分では筆記ができなくなってきたとのことでした。そこで、鉛筆が指から離れずに筆記できる道具はないかという、相談がありました。

2 利用者プロフィール

10代女性、体幹機能障害により身体障害者手帳1級・療育手帳Aであり、両親と3人で暮らしています。養護学校に通っており、文字は読めますが、発声は難しい状態です。

3 対応

なごや福祉用具プラザの展示品に鳥の形をした筆記用自助具があり、それを本人に試していただきました。ところが、自助具が手から離れてしまい、うまく使うことができませんでした。そのため、本人が手を握ってつかむ状態を紙ねんどで型を取り、それをもとに筆記用自助具を製作しました。手でつかむところは樹脂成型し、それを透明アクリル板に取り付け、筆記具として鉛筆等がはさんで付けられるようにクリップも取り付けました。



作成した筆記用自助具



使用の様子

4 結果

ご本人は上記の自助具を右手で持ち、筆記することができました。ただし文字を書くには練習が必要でした。この自助具はご本人が持ちやすいように握りを成型して作ったことと、筆記具のペン先を確認できるように透明のアクリル板を用いた点が特徴です。握り部分に青色の滑り止めゴムもあり、自助具が手から離れることなく、母親からとても良いという感想をいただきました。